



# 熊事研会報

第 133 号

熊本県学校事務研究協議会  
発行人：会長 宮崎 文子  
編集代表：研究部長 平野 哲也

## 2019年度研究部ビジョン 行動変革～主体的に!! 積極的に!!～

～目次～

- この1年を振り返って（会長挨拶）
- 全事研セミナー参加報告
- 退職者よりメッセージ
- あとがき

### この1年を振り返って

熊本県学校事務研究協議会 会長 宮崎文子

「今年度を振り返ってまとめをお願いします」と原稿依頼を受けたのが2月中旬頃でした。その時はこんな状況になるなんて想像もしていませんでした。首相より休校要請があり、その一報を聞いたときは「そんな無茶な。そんなことできるわけがない。」と思いました。しかし、3月2日から休校となりました。卒業する3年生は、「もっとみんなと遊びたかった。思い出を作りたかった。もっと勉強したかった・・・」と涙。なんでこの子たちがこんな目に・・・と辛くなりましたが、世界に目をむけるとそんなことばかりも言っていられません。拡がる感染への不安。いつ収束するのか。今をなんとか乗り切らなければなりません。予測不能な事態に、学校事務職員としてどう備えるべきなのか、学校全体を見て考えてください。学校はいつ再開できるのか。その再開のタイミングに備えて何を確認しておくべきか、準備しておくべきか。再開するに当たり消毒液は確保できているかなど、管理職や養護教諭、ほかの職員とも連携をしながら、いろいろなことを想定してみなければなりません。誰も経験したことのない事態です。経済的なダメージもあり、保護者の経済状況（就労状況）も心配です。新学期は、平常通りに始められるのか、入学式はできるのか、熊本県学校事務職員研究協議会の総会は開けるのか、国の出す方針をみながら、慎重に考え対応していくしかありません。令和は始まったばかりですが、いきなり厳しい局面を迎えました。日本はどうなるのか。私たちの目の前には子どもたちがいます。これからの日本を背負っていく子どもたちです。大人の私たちが今なんとか踏ん張り、子どもたちに明るい未来を引き継ぎ、この国を飛躍させてほしいと願います。周りを思いやる、周りに迷惑をかけないように心がけるといふ日本人の国民性のおかげで、現在のような状況で踏ん張れていると思います。東日本大震災の時も、日本人はみんなで辛い現実を凌ぎました。今、また目に見えないウイルスという敵と戦っている私たち。個人としても踏ん張り、また学校事務職員としても知恵を出し合い頑張っていきましょう。最後になりましたが、この年度末で御退職を迎えられる先生方、熊事研に対する長い間の御貢献と御協力、誠にありがとうございました。年度末年度始の一番ハードな時期です。健康管理をくれぐれもよろしくお願いいたします。



令和2年2月14日に、川崎市スポーツ文化センターホールにて、「令和元年度 第26回全事研セミナー」が開催されました。横浜港にダイヤモンド・プリンスが停泊し、新型コロナウイルスについてすべてのニュース番組で報道されているさなかでしたので、マスクの着用とアルコール消毒液、アルコール含有ウェットティッシュ、エアマスク等、万全の体制で新型コロナウイルス対策をして参加してきました。

【行政説明】文部科学省初等中等教育財務課 課長 合田哲雄 氏

まず、合田課長が「新しい時代に必要な学びの変革について」と題して行政説明されました。※合田課長の文部科学省（以下 文科省）としての行政説明は、昨年度的全事研セミナーでも実施されました。

合田課長は新学習指導要領の策定にかかわったことから、前半は、新学習指導要領の円滑な実施について説明がありました。GIGA スクール構想の実現として、Society 5.0 時代を生きる子どもたちにとって、教育における ICT を基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校 ICT 環境の整備は遅れており、自治体間の格差も大きい。ということで令和元年度補正予算を組んで、校内通信ネットワークの整備と児童生徒1人1台の端末整備が進められているそうです。

そのようななか、「年末年始に先生方と対話して考えたことー2020 年を前にした3つの懸念を軸に一初中局メルマガ「初中教育ニュース」（第376号）令和2年1月24日」にも掲載されていますが、合田課長がコラムを寄せられています。文部科学省として「学校 ICT 活用フォーラム」や「学校の働き方改革フォーラム」などを開催し情報発信を重ね、教育の変革の意味を考えていらっしゃいます。コラムの内容はHPでご覧ください。そのコラムにおいて文科省としてどのような対策を考えているかがわかります。

学校事務職員が学校全体の立場から、これらの対策をみてどのような ICT 整備をしなければいけないか意見を交わして欲しいと結ばれました。

【第52回全国学校事務研究大会 岐阜大会 PR】

休憩をはさみ、第52回全国研究大会 岐阜大会 PR がありました。大会は令和2年8月6日～7日に開催されます。東京オリンピックと同時期ということで、オリンピック観戦チケットが外れた方は是非、全事研 岐阜大会に参加してください。

【講義】兵庫教育大学 准教授 押田貴久氏

「カリキュラム・マネジメントを推進する事務職員の役割」として、兵庫教育大学 准教授 押田貴久氏の講義がありました。押田氏は教職員の人材育成（教員が指導主事に出向など）を主として研究されています。

本日の問いとして、『学校事務職員として、カリキュラム・マネジメントにどのようにコミットをするのか？』『新学習指導要領とは？』『新しい学習指導要領で期待されていること』『カリキュラム・マネジメントとは？』『学校事務職員の役割は？』から講義が始まりました。

新学習指導要領については、中教審答申を掘り下げて説明していただきました。「2030年とその先の社会の在り方を見据えながら、学校教育を通じて子供たちに育てたい姿」としてジグソーパズル型学力と REGO 型学力について説明されました。ジグソーパズル型学力は完成形が見える今までの学習方法に対し、REGO とは様々なものを組み立てるブロックのことですが、

REGO 型学力とは、みんなで共有しつくり上げていくこと、思考力を中核としそれを支える基礎力と使い方を教える 21 世紀型能力（生きる力）で、変化の激しい社会の中でよりよい人生や社会の在り方を考え、新たな価値観を創造し、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる学力です。複雑な新学習指導要領も私にはこの REGO 型とジグソーパズル型でなんとなく理解することができました。

カリキュラム・マネジメントについては、カリキュラムは教育計画だけを指すのではなく、「教育計画の実施段階である授業や、子どもが実際学んだことまでも含む概念＝子どもの学びの総体」で、「カリキュラムを主たる手段として、学校の課題を解決し、教育目標を達成していく営み」「可能な限り適切かつ効率的なカリキュラムを創造し、実施し、それを維持及び改善していく営み」（田村知子 大阪教育大学教授）。また、「教育課程を核として、経営資源の投入や協働を促すなど諸条件の効果的な活用を通して、学校教育目標の実現をめざす営み」「すべての教職員の参加によって、教育課程の編成・実施・診断・評価・改善を通して、学校の特色を作っていく営み」（天竺茂 千葉大学特任教授）により説明がありました。カリキュラム・マネジメントの手順として、教育課程の編成・実施のための組織に学校事務職員が入ることが重要であり、学校事務職員の視点でかかわって欲しい、職員会議だけではなく、校内研修に参加することで情報を得る。校内研修を財務とリンクさせることも必要であると述べられました。

つかさどる職として、教育課程を踏まえた仕事とは、「資源の連動性を図るリソース・マネジメント」「教育課程、校内組織と連動した財務」「地域連携・協働の窓口」「自らの専門性を生かした教育活動の参画」を行いながら、キャリアに応じてできることをやってほしい、若い人を育ててほしいと、「キャリアステージに応じたキャリアの形成が必要」と説明されました。キャリア形成については、熊本版グランドデザインにも掲げてあり、つかさどる職としての、学校事務職員育成指標として、また、仕事の指標として、これからも熊事研大会の分科会の在り方について、考えることができました。

最後に、一人でできることには限界があるので共同学校事務室など組織の活用も必要であると結ばれました。

#### 【全体を通しての感想】

本年度の全事研セミナーは、半日の開催ということで集中して話を聞くことができました。私自身研究部長として、不確かだったことや、研究において落ちなかったこと等がスーと頭に落とし込むことができました。また、熊事研研究部の取組についても、文科省や大学教授が研究されていることと同じ方向性であることを確信することもできました。セミナーで学んだことを、研究部活動と学校において生かしていきたいと思えます。参加させていただきまことに感謝申し上げます。



## 退職者よりメッセージ

阿蘇郡蘇陽町立馬見原小学校を皮切りに小学校5校、中学校3校。6市町でお世話になりました。あっという間の35年でした。

本研究協議会の研究大会にも、初任以来毎年欠かさず参加させて頂きました。お世話になった先輩方や同期の皆と顔を合わせる事の出来る楽しみな会でした。(皆さんの大会中の参加態度は本当に素晴らしいですね。昔は今ほどお行儀良くありませんでしたもんね。30年前と比べれば隔世の感です。)

周りの事務職員並びに本研究協議会から多くの事を学ばせて頂き、結果無事3月を迎えます。本当にお世話になりました。

最後に、皆様の今後のご活躍を祈念しまして退職の挨拶といたします。

大津町立大津小学校 井上 健洋



公立学校事務職員として、38年間勤務させていただき感謝を申し上げます。これまで、地区事務研や学習会等に参加し、様々なことを学ばせていただきました。先輩及び後輩事務職員の方々のご指導・ご助言のおかげで、無事定年を迎えることができ、心から有り難く思っております。

熊本県学校事務研究協議会及び各地区研等の更なる研究活動及び組織の発展を祈念しております。同時に、会員皆様の一層の御活躍を今後も願っております。

相良村立相良南小学校 萩永 誠



# 長い間、お疲れ様でした。



## あとがき

今年度も、会員の皆様のご協力により、4回の会報(第130号~第133号)及び2回の大会速報をお届けすることができました。原稿依頼をした際には快くお引き受けくださり、厚く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが猛威をふるい、行事等の対応を迫られ、学校現場はさらに多忙を極めております。より柔軟な対応が求められる今こそ、学校事務職員(教育事務職員、教育行政職員)が多面的な考え方から助言するなどして、学校運営の一役を担うべきかもしれません。

末筆ながら、皆様がますますご自身の健康を保持するとともに、これからの学校生活も幸多からんことをお祈り申し上げます。

熊本県学校事務研究協議会 研究部 情報調査班 会報担当

